

令和4年5月24日  
総務省九州管区行政評価局

## 「豪雨等大規模災害時における集落の孤立解消に向けた地域の取組に関する調査」を開始

－被災地における代替路確保に向けた関係機関の連携状況を中心として－

- 九州地方では、近年夏場を中心に豪雨等の大規模災害が頻発。内閣府調査（平成25年度）によると、災害時に道路寸断等により孤立するおそれのある集落は相当数に上る。  
※ 九州7県に所在する農業集落10,310のうち2,746（26.6%）
- 令和2年7月豪雨では、国道219号が寸断され八代市坂本地区で孤立集落が発生。  
支援策の一つとして、NEXCO西日本九州支社では市町村等と連携し、無料通行措置を行っている九州自動車道八代IC～人吉IC間の坂本PAにある「緊急開口部」（本来の目的は救急車など緊急車両の通行）を一般車両向けに開放するなど臨機な対応を実施。
- 総務省九州管区行政評価局では、今後災害が発生した場合に向けた関係機関の備えに資するよう、当時の各機関における対応状況について実態調査を実施します。

### 【調査項目】

災害時における集落の孤立解消に向けた各機関の取組状況  
（令和2年当時の具体的対応、その後の平常時の備えの状況等）

### 【調査対象機関】

国土交通省九州地方整備局、NEXCO西日本九州支社、県、市町村、関係団体 等

### 【調査実施期間】

令和4年5月～6月（予定）

### ＜本件照会先＞

総務省 九州管区行政評価局  
第5評価監視官 岩戸 健司  
（電話） 092-431-7088  
（FAX） 092-431-7085  
（メール） ksy13@soumu.go.jp

# 近年、九州地方で発生した主な災害

平成  
29年

## 平成29年7月豪雨

【人的被害】	【住家被害】
死者：36人	全壊：276棟
行方不明：5人	半壊：1,065棟
負傷者：21人	(注1)

平成  
30年

## 平成30年7月豪雨

【人的被害】	【住家被害】
死者：237人	全壊：6,767棟
行方不明：8人	半壊：11,243棟
負傷者：433人	(注2)

令和  
元年

## 令和元年8月の前線に伴う大雨

【人的被害】	【住家被害】
死者：4人	全壊：95棟
負傷者：2人	半壊：877棟
	(注2)

令和  
2年

## 令和2年7月豪雨

【人的被害】	【住家被害】
死者：84人	全壊：1,621棟
行方不明：2人	半壊：4,504棟
負傷者：77人	(注2)

(注1) 「平成29年7月九州北部豪雨について」(平成29年9月5日国土交通省 水管理・国土保全局) から引用

(注2) 内閣府HPの「防災情報のページ」から引用。九州地方以外の被害数を含む。

(注3) 「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査(第2回)」(内閣府政策統括官(防災担当)が平成25年度に調査を行い、26年10月に結果を公表) から引用

- 災害時に道路寸断等により孤立するおそれのある集落は相当数に上る。

(九州7県に所在する農業集落10,310のうち2,746(26.6%)) (注3)



- 令和2年7月豪雨では、国道219号が寸断され八代市坂本地区で孤立集落が発生



- ⇒ 孤立状態の早期解消に向けて、NEXCO西日本九州支社では坂本PAにある緊急開口部を一般車両向けに開放

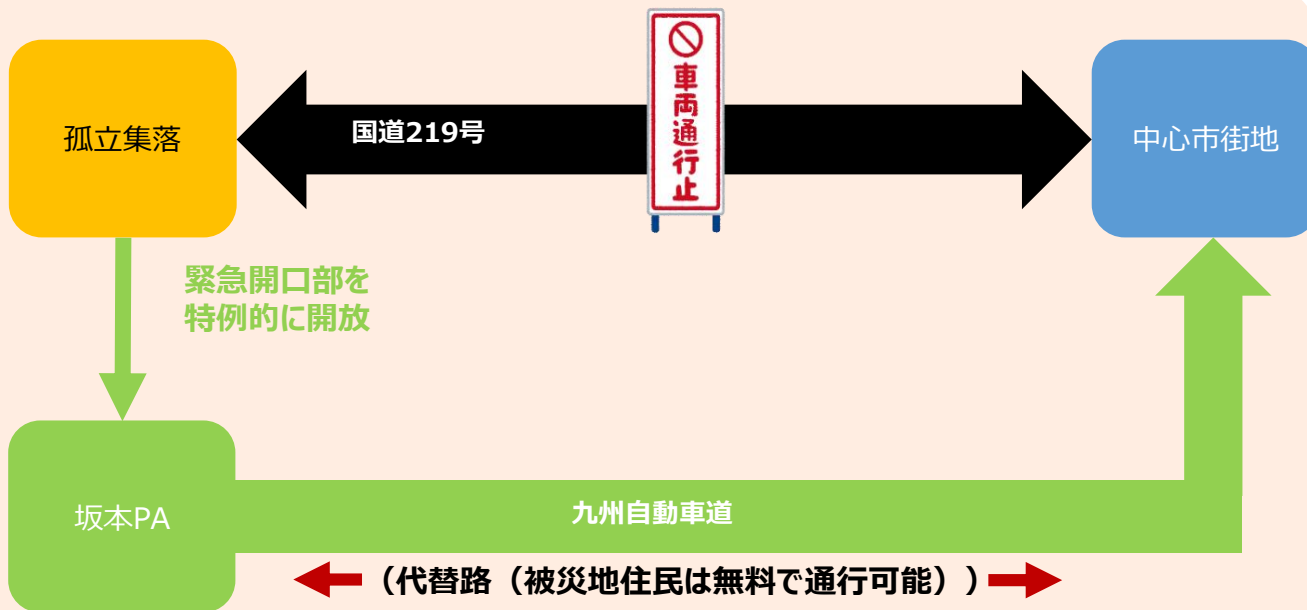
※写真提供：九州地方整備局

# 集落の孤立解消に向けた取組の一例（緊急開口部を利用）

## <参考>

令和2年7月豪雨時に坂本PA緊急開口部を特例的に利用した集落の孤立解消に向けた取組

- ① 国道219号が通行止めとなり孤立する集落が発生
- ② 坂本PAの緊急開口部を一般車両向けに開放することで中心市街地へのアクセスを確保



## 緊急開口部とは・・・

高速道路のSAやPA等に設置されているゲートで、平常時は閉鎖・施錠されている。

緊急時（災害や交通事故が発生した時など）には状況に応じて臨時的に開放され、緊急車両（救急車、消防車、パトカー、自衛隊車両等）がこのゲートを通して一般道路から高速道路に出入りする。

※ 緊急開口部は、SAやPAのほか、一部の高速バス停留所等にも設置されているケースがあります。  
なお、全てのSA・PAに設置されているわけではありません。

九州自動車道（上り線）緑川PAの例

